

北朝鮮を取り巻く環境の大きな変化が予想される2012年 —IDCJは北朝鮮研究の取組み(国際交流事業)をスタート—

北朝鮮については、これまで日本との関係改善が進展せず十分な情報もない中、横田めぐみさんの生存情報、ワールドカップ予選の平壤開催等、日本国民の関心を喚起する話題が出てくると、マスコミで一時的に取上げられるという状況が続いていましたが、昨年末に金正日総書記の急死という大きなニュースが飛び込んできました。

北朝鮮は当センターが主な調査対象としてきたODA対象国ではありませんが、これまで当センターでは、外務省調査「中国東北部の経済開発計画と北朝鮮のあり得べき経済開発計画との連携可能性に関する調査」を受託する等、関連調査には積極的に取り組んできました。過去の調査を通じて感じることは、北朝鮮において大きな変化が進んでいることです。特に、金正日総書記の急死と指導体制変更等、大きく北朝鮮が変化に直面せざるを得ない状況の中、今年2012年は世界でも中国、米国、韓国等、関係国において首脳の交替と選挙が行われる等、北朝鮮を取り巻く環境も

大きく変化することが予想されます。これらのことは各国に大きなインパクトをもたらし、日朝関係や北東アジア全体にも大きな影響を与えることとなるでしょう。

こうした状況を受け、また将来的には北朝鮮の経済社会開発に日本が様々な形で関与していくことが予想されることから、当センターは国際交流事業の一環として「北朝鮮と北東アジアの経済社会開発に関する研究事業」をスタートしました。

当国際交流事業の概要は下記の通りであり、関係近隣国の有識者の協力を得て、数年をかけて研究を行うと同時に、その成果を幅広く関係者及び一般の方々に紹介する計画です。

日本が今後どのように北朝鮮との関係を構築し発展していく可能性があるかについて、主に経済社会面から研究を行う予定です。研究成果は日本及び関係国の関係機関・関係者にとって有益な内容としたいと考えています。

研究事業概要

[目 的]

- 1) 北朝鮮の経済社会開発に関する見識を深めること
- 2) 北朝鮮に関係する北東アジアに関する国内・関係国の有識者・関係機関との関係を構築すること
- 3) シンポジウムを開催し研究結果を幅広く関係者・一般の方々に紹介すること

[実施体制]

有識者：早稲田大学教授深川由起子氏、
 東京国際大学大学院講師李燦雨氏

参加メンバー：IDCJ研究員

*その他、毎年の研究テーマを踏まえて、中国、韓国及び国内の有識者に協力を依頼。

[研究会・シンポジウムテーマ]

年度	2011年度	2012年度	2013年度以降		
地域・2国間関係	北東アジア	中朝関係	南北関係		
テーマ	北東アジアを取り巻く環境の変化と現状	北東アジア・北朝鮮におけるインフラ開発戦略	北朝鮮と中朝経済連携地域開発	ケソン工業団地開発の成果と南北経済関係	韓国のODA政策・戦略と対北朝鮮ODA
ODA分野		経済社会基盤整備	地域開発	産業開発	社会開発・ODA
基本テーマ	対北朝鮮ODAのあり方の検討				

初年度となる本年は、北東アジアを取り巻く環境の変化と現状、北東アジア・北朝鮮における総合開発戦略についての研究会を数回に分けて行い、3月には国内有識者及び海外からの有識者を招

聘し国際シンポジウムを実施致します。3月のシンポジウムの詳細については本年2月頃に当センターホームページ(<http://www.idcj.or.jp/>)に掲載しますので、是非、ご確認ください。

(文責：IDCJ主任研究員 西野俊浩)